

令和元年度

インフラメンテナンス国民会議
事業計画書

令和元年8月

インフラメンテナンス国民会議

Japanese Congress for Infrastructure Management

1. 運営の基本的な考え方

我が国のインフラは、高度経済成長期などに集中的に整備され、高い経済・生活水準の短期期間での実現に貢献してきた。しかし、我が国のインフラは老朽化が大きく進行しており、人口減少や地域経済縮小がさらに進んでインフラサービスの維持が困難となると、我が国や地域の経済や生活に大きく影響することが懸念される。すなわち、地域の今後の展開はインフラメンテナンスの成否が鍵を握っていると言っても言い過ぎではない。よって、インフラメンテナンスを効率的、効果的に行う体制を確保し、インフラメンテナンスに社会全体で取り組むパラダイムへの転換を図ることは喫緊の課題である。

インフラメンテナンス国民会議（以下、「国民会議」という。）は、インフラを良好な状態で持続的に活用するために、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、インフラメンテナンスの理念の普及、課題の解決及びイノベーションの推進を図り、活力ある社会の維持に寄与することを目的として、平成 28 年 11 月 28 日に設立された。具体的には、インフラ老朽化の課題を社会全体で解決する新たなモデルを実現するため、施設管理者や建設業のほか異業種産業、市民、学術研究機関等の産学官民のあらゆる主体の技術や知恵を総動員するプラットフォームとして運営している。

設立時に 199 者だった会員も 1756 者に増え（令和元年 7 月 19 日現在）、会員または社会から国民会議に寄せられる期待も高まっている。昨年度は地方フォーラム活動の推進により活動のさらなる活性化を図り、その結果、フォーラム等での支援自治体数は 92 自治体にのぼり、地方フォーラム開催数は 45 回、マッチング・現場試行実施数は 139 件であった。また、国民会議設立後の新技術の実装数は 6 技術 71 現場に至っている。

本事業計画書は、インフラメンテナンス国民会議実施要領に基づき定める事業計画であり、また、国民会議が社会に貢献していくために会員が共有すべきビジョンや中期展開などをまとめており、これに基づき令和元年度の国民会議を運営していく。

(1) 国民会議の目指す理念とビジョン

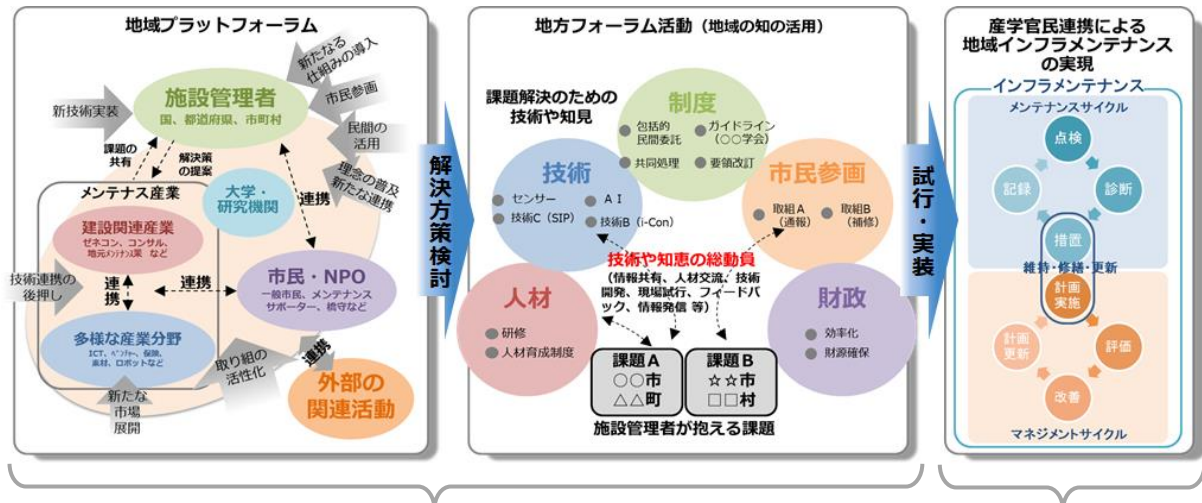
会員は、以下の国民会議が目指す理念とビジョンを共有しながら、その実現に向け、インフラメンテナンス国民会議実施要領第三条に規定される事業内容を一丸となり取り組む。

(理念)

- ・ 産学官民がインフラ施設を「自律的・継続的」に維持管理することが可能な仕組みの構築に向けて支援する（インフラの価値を高め、地域の活性化を促進）。

(ビジョン)

- ・ 産学官民が知恵を出し合い、オープンイノベーションによってインフラ老朽化の課題を解決し、少子高齢・人口減少社会におけるより豊かな未来・まちづくりに貢献する。
- ・ 持続的にインフラ老朽化の課題の解決にあたるため、メンテナンス産業の魅力を高め、その裾野の拡がりを目指す。



オープンイノベーションの基盤

メンテナンス産業の対象範囲

図-1 インフラメンテナンス国民会議の役割とビジョン

(2) 中期的な展開 (令和元年以降)

国民会議設立以降、地方フォーラムも含めた活動により短期的な目標である「自治体へのインフラメンテナンスの重要性と理念の浸透」が図られてきた。今年度以降、さらに中期目標として「地方におけるインフラメンテナンスの生産効率化に向けた動きの加速化」を定め、活動を実施する。

(年次別の展開概要)

- ✓ H28 年度：国民会議の設立、5 フォーラムの設立
- ✓ H29 年度：既存 5 フォーラム活動の加速、地方フォーラムの設立、相互連携、成果の発現
- ✓ H30 年度：フォーラム活動の充実と相互連携加速、成果の発現
- ✓ R 元年度：国民会議活動の充実、成果の加速度的発現
- ✓ R2 年度：国民会議自立的活動の実現（活動成果の実装による効率的なインフラメンテナンスの実現）

(活動の方向性とその中期的な目標)

運営体制・・・設立時に計画された実行委員会、部会や全国フォーラムの活動をベースに地方フォーラム活動を核とした自治体インフラメンテナンスの課題解決に向けた活動を企画、運営する。

地方自治体への支援・・・地方自治体が令和 2 年までに行う個別施設計画の策定、実施を支援するため、会員自治体の抱える課題や国民会議における解決の到達点を明確にし、その解決を目指した地方フォーラム活動を企画、実施していく。

具体的には、包括的民間委託や技術者派遣等の自治体支援方策について、

包括的民間委託の事例の横展開や技術者派遣の制度化等の取組を「自治体支援フォーラム」の支援の下、官民連携して進め、良質で健全なサービスおよび市場形成を目指す。

さらに、地方フォーラムにおいて国民会議活動の基本である「インフラメンテナンスの理念の普及」に努めることとし、具体的な活動として「企業等の連携の促進」による「革新的技術の発掘と社会実装」や「インフラメンテナンスへの市民参画の推進」によりインフラメンテナンスの生産性向上を目指す。

自治体の支援は地方フォーラムが主体となり実施する。支援にあたっては実行委員会、全国フォーラムと連携を強化し、活動分担の明確化を図る。

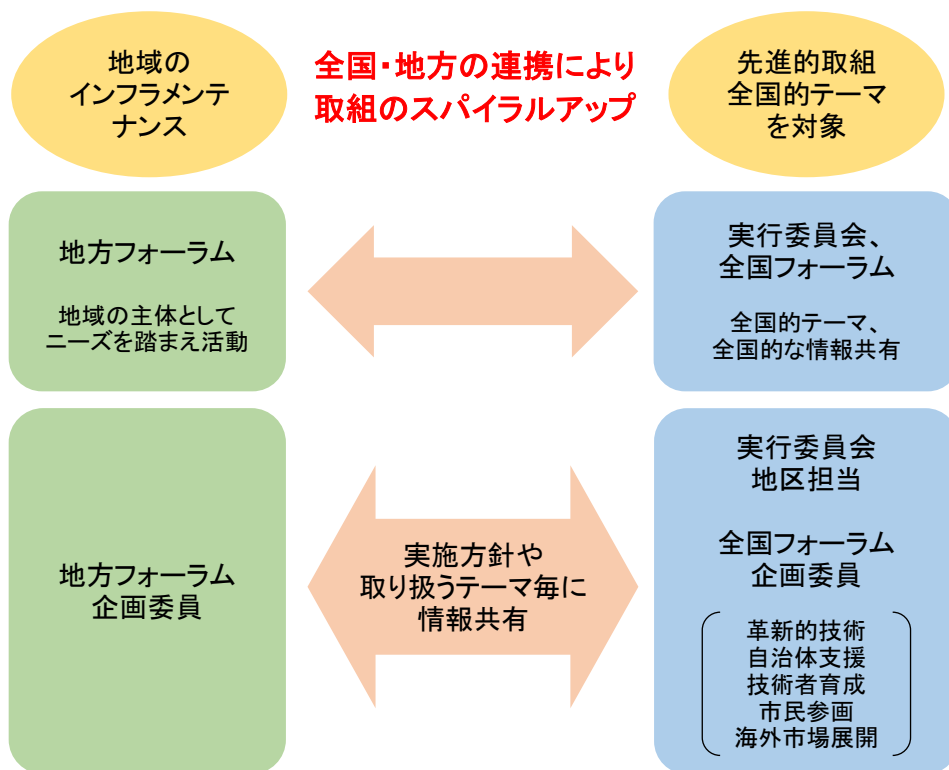


図-2 地方フォーラムと実行委員会・全国フォーラムとの関係図

革新的技術の発掘と社会実装・・・インフラメンテナンス革命をもたらす革新的技術について、社会実装や現場試行のきっかけを生み出す、シーズ側とニーズ側との情報交換や人材交流を全国的に促進する。また、我が国のインフラメンテナンスの海外への市場展開を促進するため、海外市場に展開する具体的な案件を形成する。

企業等の連携の促進・・・インフラメンテナンスにおけるオープンイノベーションをさらに加速するための会員内外の企業等の連携のきっかけとなる取組を進める。

インフラメンテナンスの理念の普及・・・インフラメンテナンスおよび国民会議の理念を社会に徐々に浸透させる。

インフラメンテナンスへの市民参画の推進・・・インフラメンテナンスへの理解や、市民参画の有り様についての社会の共通認識を徐々に形成するとともに、新たに市民参画に実践するモデル地域を発掘し、実現する。

(3) 令和元年度における活動の方針

国民会議の活動の中心をなすフォーラムについては、これまでに設立された全国フォーラム（自治体支援、革新的技術、技術者育成、市民参画、海外市場展開）の活動を本格化させるとともに、会員の発意による新たな施設分野やテーマ等を扱うフォーラムの設置についても積極的に支援する。

地域単位で課題解決を目指す地方フォーラムについては、個別課題に対して全国フォーラムで共有された仕組みや技術・手法の地域における試行、さらには実装に向け検討する。また、地方フォーラムの運営に当たっては、革新的技術フォーラム等の全国的なフォーラムとのテーマ調整や、現場におけるインフラメンテナンスの革新的技術や新技術、新たな仕組みの社会実装に向けた地域レベルにおける効果的な成果を生み出す運営を図る。

インフラメンテナンスに強い関心を有する市区町村長が参加する「リーダーフォーラム」を立ち上げ、地方自治体の取組をさらに推進する。

また、国民会議の目指す社会のビジョンや国民会議のミッション、中期的な活動の方向性、内容については企画部会を中心に検討を行い、具体施策として実行委員会に提示し今後の国民会議の運営や組織体制、関係省庁による支援等に反映する。

関係省庁によるインフラメンテナンス大賞については今後関係省庁と連携し、第3回表彰案件等の全国的な普及を図る。

成果目標と令和元年度の KPI を以下に示す。

- ・ 成果目標

- 地域がインフラ施設を自律的・継続的に維持管理することが可能な仕組みの構築
ならびに継続的に改善・イノベーションができる環境整備

- ・ 令和元年度の KPI

- ① 国民会議の運営

情報活用・管理：情報活用戦略策定体制ならびに情報管理実施体制を構築する。

- ② 地方自治体への支援ならびに自治体（地域）の課題解決に向けた具体取組みの推進
実効性：新技術・既存技術の適用・応用さらには、新たな仕組みの現場試
行、規制緩和・要領改訂に向けた検討等による支援自治体数 100
とする。

活動活性化：地方フォーラム実施数 50 回とマッチング・現場試行実施数 150
回とする。

水平展開のための運営ノウハウ（成功例・失敗例・反省）を、各
地方フォーラムは 1 事例以上作成し提出する。

- ③ インフラメンテナンスの理念の普及

普及活動：SNS による情報発信の体制を構築し、運用を開始する。

- ④ インフラメンテナンスへの市民参画の推進

市民参画推進：行政と市民の協働事例収集。また、問題解決のためのワークショ
ップ講座を 5 回開催する。

- ⑤ 自治体（地域）の課題解決に向けた具体取組みの推進

上記の内、特に地方フォーラムを中心に推進していく内容につき以下に整理する。

項目	K P I
自治体支援 (新技術・既存技術適用、 新たな仕組み導入等)	支援自治体数：100 地方フォーラム実施数：50 マッチング・現場試行実施数：150
市民参画	ワークショップ講座開催数：5

2. 事業計画

(1) 国民会議の運営

メンテナンス体制の維持が困難もしくは課題を抱えている地方自治体等が、厳しい財政事情や地域の担い手が不足する中で、今後策定が進められる個別施設計画に基づき着実にメンテナンスを実施していくためには、抜本的な生産性革命をもたらす新たなインフラメンテナンスの仕組みを各地域で産官学民連携により実現しなければ、適切なメンテナンスが立ちゆかなくなる可能性がある。

このため、国民会議では、インフラメンテナンスの将来像として、インフラメンテナンスの各段階における革新的技術の導入や行政分野における民間ノウハウの活用の仕組みに関する検討を行う。ここでは、インフラメンテナンスの要素である人材、資機材、システム、マネジメント等の導入に関し、施設管理者側、担い手側双方による地域間や広域的な共同化、市民や他産業との共同化、または地域づくりなどの新サービスへの展開等、これまでの枠組み、仕組みにとらわれず、生産性革命を実現するものを自治体支援の目指すべき将来像として描き出す。

そして地方フォーラムにおいて具体施策の試行・実装を目指す。

また、その実現に国民会議として取り組むため、会員間の将来像の共有や社会への情報発信などにも取り組む。

ア) 実行委員会・企画部会・広報部会

事業計画に基づく自立的な運営（活動成果の実装による効率的なインフラメンテナンスの実現）に向け、地方フォーラムとの連携強化・地方フォーラム間の情報共有に重点を置いた運営を行う。また、活動成果の実装を目指し外部機関との情報共有を進め活動の拡大を図る。主な役割は以下の通りとする。

- ・ 実行委員会と地方フォーラム間の情報共有と実行委員会を介した地方フォーラム間の情報共有の推進実施。特に地方フォーラムを地域のインフラメンテナンスの課題解決の基盤とするべく、全国 10 ブロックの地方フォーラムの方向性や活動状況をモニタリングし、全国での共有化を図る。また、情報活用・管理の体制に関し検討を進める。
- ・ 企画部会は、様々な課題・問題解決のための具体施策の検討と実行委員会への提示を行う。
- ・ 広報部会は、各フォーラム活動の情報共有化推進と各フォーラムへの実施方針の浸透を図る。
- ・ 実行委員会の地方フォーラム地区担当は、実行委員会の実施方針の浸透や全国フォーラムの情報共有を目的として、地方フォーラム対応の窓口となり地方フォーラムの円滑運営の支援を行う。

図-3 に運営体制の概要を示す。

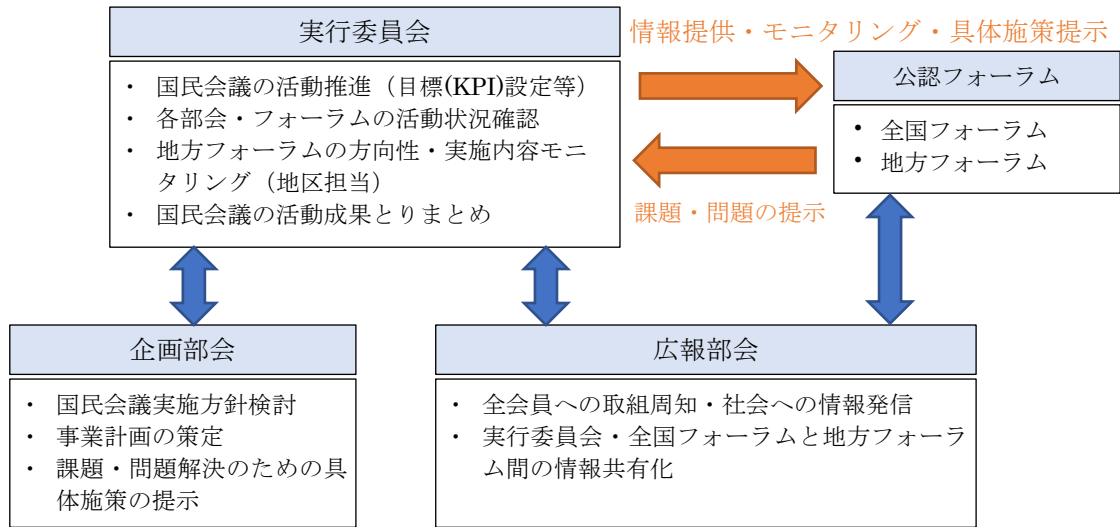


図-3 運営体制の概要 （ ⇄ が今年度の重点 ）

イ) 外部委員会との連携

国民会議の運営においては様々な機関や取り組みとの連携が重要となる。今年度は生産性効率化を目指した技術の導入に関しては国交省の委員会である「インフラメンテナンス新技術・体制導入推進委員会」、また、広くインフラメンテナンスの必要性の浸透や活動の推進に向けては土木学会等との連携促進を図る。

(2) 全国フォーラムの運営

ア) 革新的技術フォーラム

施設管理者の課題に対し、解決策となりうる会員が有する技術・サービス等についての集約と施設管理者に対する情報提供を行うとともに、実装に向けた課題（技術評価方法、基準見直し等）を整理し、インフラメンテナンス（メンテナンスサイクル&マネジメントサイクル）の効率的運用を目指す。

具体的には、インフラメンテナンスにイノベーションをもたらす可能性のある異分野技術やアイデアを有する企業や大学との連携を促すため、会員企業がテーマを設定して異分野技術やアイデアを募集するピッチイベントの開催や地方フォーラムとの連携促進によるニーズ解決に向けた検討を行う。

イ) 海外市場展開フォーラム

海外市場への展開のため、海外進出を希望する会員を対象として、海外で活用できる技術の整理、海外における技術需要の調査、海外での知名度向上を図る取組を行うとともに、具体的な海外進出の案件（市場）形成を進める。

ウ) 自治体支援フォーラム

地方自治体が令和2年度までに策定、実施する個別施設計画の計画策定や実施の体制確立を支援するため、会員自治体の体制や課題を実行委員会の地区担当を介して地方フォーラムを通じ把握し、自治体の課題・ニーズ、取組について情報共有を行うとともに、包括的民間委託、技術者派遣等の制度・体制に関する全国的テーマについてのノウハウの情報交換等を行う自治体支援フォーラムを継続的に開催する。

エ) 技術者育成フォーラム

包括的民間委託、技術者派遣等の新たな民間ノウハウを活用する手法において、担い手側に求められる企業連携やマネジメント体制の確立に向け、地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性を模索するシンポジウムを地方フォーラムと連携して開催し、インフラメンテナンスの課題解決の具体方策として求められる技術者の資格や制度の枠組み等について検討を進め、試行さらには実装を目指す。

オ) 市民参画フォーラム

インフラメンテナンスにおける市民参画の意義を認識し、市民と行政の協働を促進しようとする機運のある地域に対し、その理解を深め導入を支援するため、インフラメンテナンスにおける市民参画についてのイベントやワークショップ等を地方フォーラムをはじめとし、他のフォーラム活動と連携して実施する。

(3) 地方フォーラムの運営

全国の10ブロックにおいて設立した地方フォーラムにおいて、地域を拠点として扱うことが妥当な地域単位の課題を対象として、様々な情報発信、交換等によるニーズ解決型のフォーラムを開催する。また、ニーズ解決策としての技術や仕組みの適用を企業間連携や産学官民間連携により構築し、現場試行をはじめとする解決策の実装、事業化等の成果の実現を目指す。

さらに、自治体間の情報共有・交換による上記取組の推進や自治体間連携を促進する。

(4) 広報活動

インフラメンテナンスの理念の普及ならびにインフラメンテナンス国民会議の将来像を共有するため、国民会議の主催事業としてシンポジウム・イベント等の広報を実施するとともに、会員自らがSNS等による情報発信やマスメディアによる紹介、地域貢献活動等を支援し、国民会議による協力事業として広報する。

併せて、インフラメンテナンス大賞等のベストプラクティスの収集に努め、会員間での情報共有を進めるとともに、シンポジウムやイベントを通じて紹介し、それらの事例の全国への拡大を図る。

また、事務局、実行委員会、各フォーラムの意思疎通や情報共有を図る。

図-4 に広報部会の果たす役割（立ち位置）を示す。

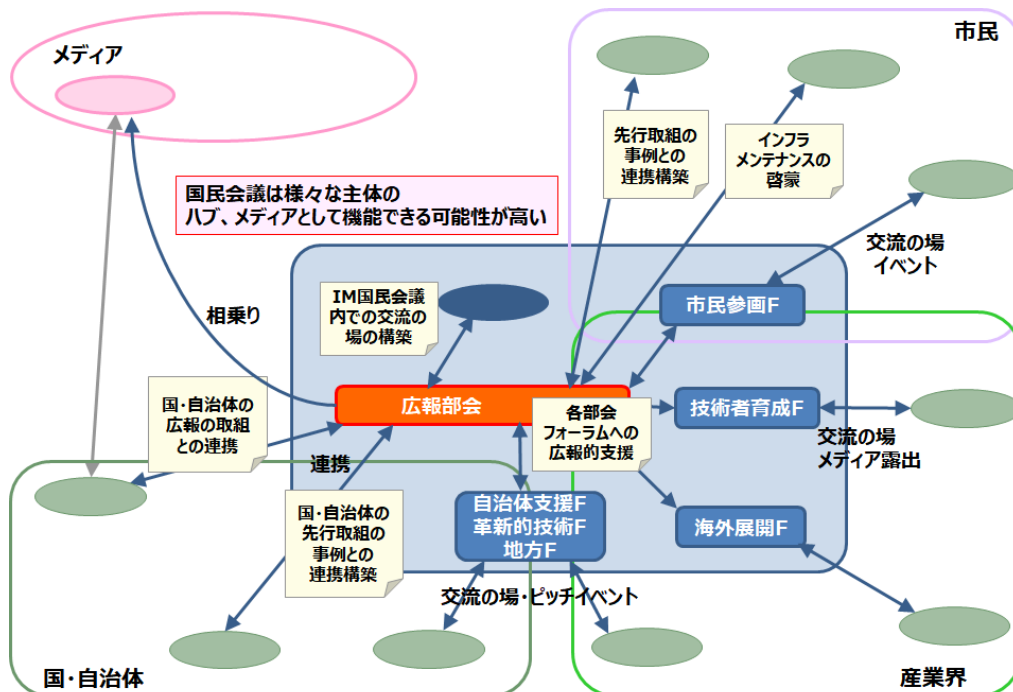


図-4 広報部会の果たす役割（立ち位置）

(5) 自治体（地域）の課題解決に向けた具体取組みの推進

地域のインフラメンテナンスの課題解決の基盤となるのが、「地方フォーラム」である。

図-5 では、地域がインフラ施設を自律的・継続的に維持管理することが可能な仕組みの構築を地方フォーラムが地域の自治体とともに、産学官民で課題解決を図っていくことを示している。図-5に「インフラメンテナンス地域展開」の方向性を示す。

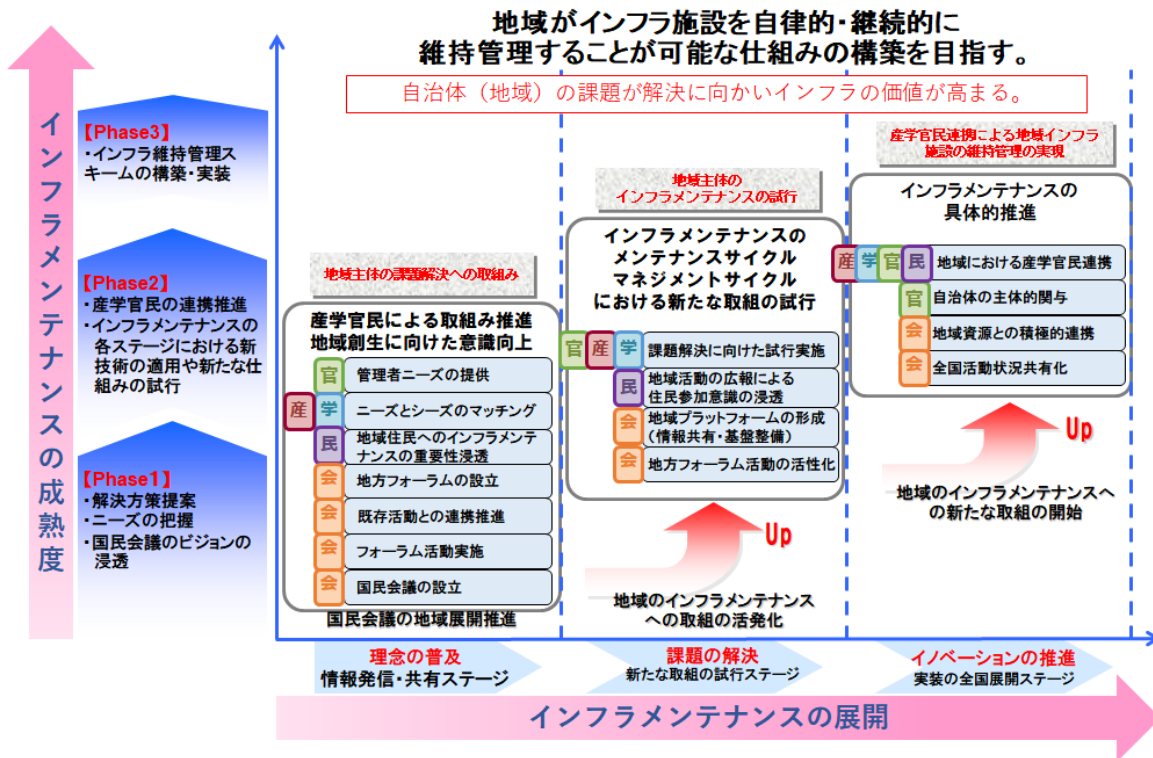


図-5 「インフラメンテナンス地域展開」の方向性

以下に、地方フォーラムの活動に関し、既実施ならびに計画の概要を示す。

なお、活動計画は本事業計画策定時点の予定であり、変更となる場合がある。

地方フォーラム	活動計画（令和元年度）概要		
	活動・行事名	開催予定日	内容
北海道フォーラム	シンポジウム 釧路	7月31日	新たなノウハウを活用した地方のインフラ・アセットマネジメントを考える
	シンポジウム 稚内	8月29日	新たなノウハウを活用した地方のインフラ・アセットマネジメントを考える
	シンポジウム 札幌	11月25日	地方の水インフラを支えるシステムとノウハウを考える
東北フォーラム	マッチングイベント in 仙台	6月25日	宮城県と山形県内の自治体を対象としてニーズ調査実施、マッチングイベントを仙台市で開催。メンターによる特別講演を開催。
	マッチングイベント in 青森	7月29日	青森県内の自治体を対象としてニーズ調査し、青森市内でマッチングイベントを開催。メンターによる特別講演を開催。
	マッチングイベント in 秋田	8月22日	秋田県内の自治体を対象としてニーズ調査し、秋田市内でマッチングイベントを開催。メンターによる特別講演を開催。
	マッチングイベント in 郡山	10月28日	福島県内の自治体を対象としてニーズ調査し、郡山市内でマッチングイベントを開催。メンターによる特別講演を開催。
関東フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	第1回フォーラム	10月頃	講演、自治体先進事例紹介等
	マッチングイベント	1～2月頃	講演、マッチングイベント等
北陸フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	第3回フォーラム	11月頃	・研究協力協定と実証試験の検証状況について報告・意見交換
	けんせつフェア北陸 in 富山2019	10月2日～10月3日	・建設技術報告会（新技術、新工法等の展示・報告）
中部フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	建設技術フェア in 中部2019	10月16日～10月17日	・マッチングイベント ・講演「インフラメンテナンスにおける新技術導入促進・自治体支援等の取り組み（国土交通省総合政策局公共事業企画調整課）」
	新技術交流イベント2019 in 静岡	10月30日	新技術、方策導入に関する産学官討論会
	中部フォーラム会議	2月頃	個別自治体支援活動の報告会
近畿フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	近畿本部フォーラム2019	5月30日～5月31日	① 民間企業・団体等76ブースによるインフラメンテナンスに関する技術・製品の展示会 ② 京都府で行われた第5回・第6回実証実験についての報告会

地方フォーラム	活動計画（令和元年度）概要		
			③ 特別講演・基調講演 以上を「近畿管内道路メンテナンス合同会議」と同時開催し、2日間で延べ5362名が来場した。
	第1回現地調査	8月6日	奈良県吉野郡十津川村にて「人道吊橋のメインケーブル維持管理技術」の実証実験を行うにあたり、事前調査を実施する。
	第7回フォーラム	8月下旬～9月上旬	自治体を対象に行った施設管理に関する課題（ニーズ）のヒアリング調査に基づき、民間企業等を交え、課題解決に向けた討議を行う。
	第5回ピッチイベント	10月24日	第7回フォーラムの討議結果に基づき、施設管理者の課題（ニーズ）に対し、民間企業等が保有する技術やノウハウの提案を行う。
	第8回実証実験（予定）	1～2月頃	第5回ピッチイベントの結果を踏まえ、課題解決の可能性が高いシーズについて現地にて技術の検証を行う。
中国フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	第2回ニーズ調査	5月24日～6月14日	施設管理者が抱えるインフラメンテナンスに関するニーズの調査
	第2回ワークショップ	10月頃	第2回ニーズ調査に対するフォーラム
	第1回実証試験	10月頃	昨年度実施した第2回ピッチイベントにおけるシーズ技術の実証試験
	市民活動支援	11月頃	市民による通学路パトロールの支援
	第3回ピッチイベント	11月頃	第2回ワークショップに対するピッチイベント
	建設技術フォーラム2019 in 広島	11月頃	ブース出展による広報活動
	第4回ピッチイベント	1月頃	第2回ワークショップに対するピッチイベント
四国フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	第2回ピッチイベント	秋頃	インフラ管理者のニーズと開発者シーズのマッチングを予定
九州フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	第2回ピッチイベント ピッチイベント in おおいた2019	7月30日	<ul style="list-style-type: none"> 前半：有識者による講演及び大分県内での実装事例紹介 後半：大分県内の各自治体から収集したニーズに対して、企業側から技術を提供するマッチング活動を実施
	第3回ピッチイベント ピッチイベント in ふくおか2019（仮称）	10月9日	<ul style="list-style-type: none"> 前半：有識者による講演を予定 後半：九州内の各自治体から収集したニーズに対して、各自治体から収集したニーズを提供するマッチング活動を実施予定
	実証実験（マッチング後）	9月～10月予定	<ul style="list-style-type: none"> 第一回マッチングを受け、実証実験を実施予定（玉名市、長洲町）
	市民向け現場見学会	11月予定	<ul style="list-style-type: none"> インフラメンテナンスに関する市民向け現場見学会を予定
	産学官連携インフラメンテナンス実務者フォーラム	未定	<ul style="list-style-type: none"> 自治体向け、技術養成イベントを予定

地方フォーラム	活動計画（令和元年度）概要		
沖縄フォーラム	活動・行事名	開催予定日	内容
	第1回マッチングイベント	11月以降	技術マッチングの内容を検討中